



2019年10月30日

各位

上場会社名 株式会社ショクブン
 代表者 代表取締役社長 鈴木 章人
 (コード番号 9969)
 問合せ先責任者 執行役員管理本部長 伊藤 久日
 (TEL 052-773-1011)

第2四半期累計期間業績予想との差異及び通期業績予想の修正と 特別損失(減損損失)計上のお知らせ

2020年3月期第2四半期累計期間業績予想について、2019年5月14日に公表した業績予想との差異が発生いたしました。また、2020年3月期通期業績予想について下記の通り修正いたしましたので、お知らせします。

記

1. 業績予想の修正等について

(1) 2020年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値との差異(2019年4月1日~2019年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,190	百万円 △60	百万円 △68	百万円 △36	円銭 △3.84
今回実績(B)	3,245	24	29	130	13.59
増減額(B-A)	55	84	97	166	
増減率(%)	1.7	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	3,425	△95	△92	△68	△7.09

(2) 2020年3月期通期連結業績予想数値の修正(2019年4月1日~2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 6,637	百万円 △75	百万円 △92	百万円 △79	円銭 △8.28
今回修正予想(B)	6,579	78	75	118	12.37
増減額(B-A)	△57	153	167	197	
増減率(%)	△0.9	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	7,104	△58	△88	△382	△39.83

(3) 2020年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値との差異(2019年4月1日~2019年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,190	百万円 △67	百万円 △44	百万円 △2	円銭 △0.23
今回実績(B)	3,240	16	66	177	18.47
増減額(B-A)	50	83	110	179	
増減率(%)	1.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	3,420	△125	△90	△55	△5.81

(4) 2020年3月期通期個別業績予想数値の修正(2019年4月1日~2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 6,637	百万円 △90	百万円 △75	百万円 △50	円銭 △5.27
今回修正予想(B)	6,569	62	104	166	17.39
増減額(B-A)	△67	152	179	216	
増減率(%)	△1.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	7,092	△99	△97	△379	△39.53

2. 修正等の理由

(1) 第2四半期連結累計期間業績予想と実績値との差異

当第2四半期連結累計期間につきましては、今期推進してきた、①拠点統廃合による経営効率の向上、②原価低減への取り組み、③経費面の徹底的な見直しの3つの施策が奏功し、当初予想を上回る結果となりました。また、売上高も当初見通しより1.7%プラスの結果となり、野菜相場も比較的安定推移したことも業績面で寄与いたしました。

また、上記拠点統廃合により遊休資産となった不動産の売却について、想定を上回る価額で売却できたことから、固定資産売却益として1億25百万円を特別利益に計上しております。

これらの結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前回予想を上回り、24百万円の営業利益、29百万円の経常利益、1億30百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益になりました。

(2) 通期連結業績予想

通期の業績見直しは、第2四半期連結累計期間業績及び直近の実績に加え、下期におきましては、当初通期予想に見込んでいなかった営業所の統廃合を計画している為、売上高については通期予想を下回る見込みですが、利益面については、(1)に記載の3つの施策効果が、さらに大きくなると見込んでおります。

また、本日付けで開示しております「特別損失(投資有価証券売却損)の発生に関するお知らせ」に記載の通り、投資有価証券売却損36百万円を特別損失として計上する予定です。

結果、売上高は前回予想を下回りますが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を上回り、65億79百万円の売上高、78百万円の営業利益、75百万円の経常利益、1億18百万円の親会社株主に帰属する当期純利益となる見込みです。

(3) 第2四半期累計期間個別業績予想と実績値との差異及び通期個別業績予想

個別の第2四半期累計期間業績及び通期業績予想につきましても、連結と同様の理由によりそれぞれ修正いたします。

3. 特別損失(減損損失)の計上について

前述のとおり、下期に営業所の統廃合を計画している支社及び使用方法を変更した本社の遊休不動産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当第2四半期連結会計期間において、減損損失として39百万円を特別損失に計上することといたしました。

※ 業績予想等につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上